

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかじ

# 南ぬ風

2019.1~3  
Vol. 50  
冬号

君が いる 場所







名護市ビーチ(画像提供：名護市)



通りすぎたらいちゃさいびん！  
PRポスター

「名護市生まれの前田理事長から見て、名護市はどんな街ですか？」  
名護市は「通りすぎたらいちゃさいびん！」、もったいないよ〜というキャッチコピーが示す通り、海あり山あり、ビール工場や泡盛酒造所あり、ひんぷんガジュマルや建築物としても有名な市役所などの見どころもあり、各地域独特の豊年祭ありと文化的にも非常に充実した地域。ただ、素材はいっぱいあるのに、それを活かさきれていないという一面もあります。

私ども名護市観光協会の会員企業に聞いても、沖縄美ら海水族館に行く大勢の観光客の皆さんが、飲食や宿泊で地元にお金を落としているという実感がわかないという声があります。人気の飲食店には行列ができて、旅行者と地元でどうも棲み分けされているような印象です。宿泊に関してはハイクラスなりリゾートホテルから安価なゲストハウスまで、分散化するニーズを受け入れられる多様性はあると思います。民泊も増えていますし、観光に関する数字の推移を可視化することも必要でしょうね。でないと、未来に向けた取り組みも、方向性を見誤ったものになってしまいます。市町村単位と

いうより、沖縄本島北部全体という、広域での国内外の観光客受け入れ体制が求められていると思います。それを取りまとめる沖縄県の出先機関が、名護市にあってもいい。名護はやんばるの情報発信や玄関口としての役割を担うべき街です。

——前田理事長ご自身は、名護市の未来にどんな構想をお持ちですか？  
名護市にはロングビーチ構想があります。21世紀の森公園から屋敷区のほうにかけて、自然の海岸線が続いています。宇茂佐区から屋敷区辺りの浜辺はそのまま活かしつつ、ワイキキみたいに地元の人も旅行者も、海に親しめるビーチがある街になればいいなと思っているんですよ。エリアによって、遊泳区域と動力を使うマリンスポーツの区域を分けてもいい。名護市の良い点の一つは「ほどよい田舎」であること。仕事帰りにビーチとか、都会では実現できないライフスタイルが可能になります。名護市は観光に関する行政が遅れ気味です。観光地化されていない分、夢を行動に移す時期なのかなと思います。住みよい町は、行きよい町。住みよい地域にすることも、名護市観光協会の役割だと思います。

——住みよい地域、いいですね！

名護市は東シナ海、羽地内海、太平洋に面しています。沖縄本島内の自治体としては、面積は最大で、55もの字があつて、エリアごとに色濃く「わったーシマの〇〇」という伝統文化もある。それら地域の個性をつなげてPRするのも名護市観光協会の役割です。

「北部は3泊しないと遊びつくせない」という認識が広がって、皆さんが北部でゆっくり過ごしていただけるようになるとうれいすね。そのとき、名護市の中でキラリと光るコンテンツになりそうなのが、「なごアグリパーク」と「ネオパークオキナワ」です。財団には、民間のチカラを活用して、より魅力的な地域づくりにご協力いただければと思います。

名護市は2020年で市制50周年、名護市観光協会は2021年で創立60周年を迎えます。私どもとしても、財団と共に魅力的な名護市を作っていきたいですね。

——なごアグリパーク、沖縄県立名護青少年の家、美ら島自然学校などがある名護市は、財団にとって重要な活動拠点の一つです。今後、これまで以上に連携体制を強化したいと考えていますが、名護市観光協会という立場から財団に期待されている

「名護さくら祭り」をはじめとする地域のイベントに、積極的にご協力いただいていることには大変感謝しております。なごアグリパークの駐車場からシャトルバスを出しているだいており、本当に助かっています。

先日は、財団が本部半島のPRビデオを作るというプロジェクトがあつて、公立大学法人名桜大学の学生と、地元企業のコラボで作ってみたらとご提案したところ、できあがったビデオには名護のヒンブンガジュマルもすっかり入っていて、本部半島だけでなく、やんばる（沖縄本島北部地域）全体のPRになっていた点がすばらしいと思いました。財団が広い視野で考えて、リードしてくれるのは非常にありがたいと思っています。

やんばる全体で見ても、財団はリーディングカンパニー的な存在。自然科学や歴史・文化というアカデミックな部分を含め、やんばる地域全体のレベルアップに貢献してくれることを期待しています。地域の企業とどうつながるかを考えるのは、名護市観光協会の役目でもありますから、現在の取り組みの加速、これからの広がりについて共に考え、共に動けるといいですね。

## 北部全体を盛り上げるといふ視点での連携を



HIROKO MAEDA

文＝いのうえちず

目白学園女子短期大学英語英文科を卒業後、東京品川の有名ホテル勤務を経て帰沖。株式会社前田産業に入社し、現在は同社代表取締役社長として3ホテル1商業施設を経営。2016年6月より公益財団法人名護市観光協会理事長に。

# 前田裕子

公益財団法人 名護市観光協会  
理事長

沖縄美ら島財団と共に、刺激し合いながらいい地域づくりをしたい

1961年に名護町観光協会として発足以来、沖縄県内でも歴史のある観光協会として地域発展に貢献してきた公益財団法人名護市観光協会（以下、名護市観光協会）。沖縄本島北部地域は、世界自然遺産登録が期待されており、名護市はその玄関口であり、年間500万人を迎える国営沖縄記念公園（海洋博公園）に加え大きな観光の拠点となる。今後のあるべき姿をどのように展望されているか、沖縄美ら島財団（以下、財団）に期待することなども含めて、名護市観光協会の前田裕子理事長にお話を聞いた。

## contents

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 美ら島をつなぐ人          | 02  |
| おきなわ暮らしのカレンダー     | 04  |
| 沖縄 美ら海水族館で出会える生き物 | 05  |
| 沖縄の希少植物           | 05  |
| 調査研究              | 06  |
| 普及啓発              | 08  |
| 御城物語              | 09  |
| 沖縄いきものコラム         | 09  |
| 運営管理              | 10  |
| スポットライトの向こう側      | 12  |
| 財団いんふお            | 14  |
| 編集後記              | 15  |
| おもろさうしの植物         | 裏表紙 |

作品タイトル「君がいる場所」  
北中城村文化協会賞  
一人一人に「花」が生えている世界を舞台に、一人の少女を中心に展開するストーリー仕立ての絵本作品。繊細なタッチで描かれる、どこかユーモラスなイラストが印象的だが、絵本としてのクオリティを高くしているのは、紙や書体などのディテールも大切にデザインワークだろう。展示用ポスターやパネルもセットで制作した。  
沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 デザイン工芸学科 デザイン専攻  
仲村渠 達郎さん(沖縄県出身)

47号から50号までの1年間、沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第29回卒業・修了作品展」で受賞した4作品が表紙を飾ってきました。次号からは「第30回」受賞作品を紹介予定です。

誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」とは…  
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思います。





# おきなわ 暮らしの カレンダー

vol. 3



## 「御願解き」ウケワン ブトウチ



ウブクのほか、果物などをお供えする家庭もある。

沖縄の台所には「火の神」<sup>ヒメカ</sup>と呼ばれる神さまの香炉が置かれており、火の神は一家の守護神として家族の暮らしぶりを見守るという信仰がある。その家の主婦は火の神に家族の無病息災や心配事について日常的に祈りを捧げる。日本国内では台所に小さな神棚を置き、かまどの神である荒神様をお祀りするという信仰がある。沖縄の火の神もかまどの神様なのだが、日本の神道や日本独自の仏教的習慣よりも、中国の道教の影響を強く受けており、古くはかまどの象徴として三つの石を置いたことから「ウミチムン（御三物）」とも呼ばれていた。

旧暦12月24日、火の神は天に帰り、1年間に起きたことを天帝（天にいる神の中の神）に報告するとされる。御願解きは、1年お世話になったことに感謝し、いろいろお願いしてきたことから火の神を解放して、天にお帰ってくださいと祈る行事。気持ちよく帰ってもらうため、台所をきれいに掃除してから火の神を天に送り出すという考えもある。また、天帝にイメージの悪い報告



をされないよう、火の神の前で愚痴や人の悪口を言ってはいけないとされる。

お供えは地域や家庭によって異なるが、ウブクと呼ばれる白いご飯をお供えし、火の神が天に帰るのを助けるために、間隔を置いて順番に火をつけた平御香（6本の線香がくっついたシート状の形をしている、沖縄独特の線香）を7枚、香炉に立てる例が多いとされる。ちなみに天に帰った火の神は、旧暦1月4日の「火の神迎え」で各家庭に戻ってくるという合理的な制度になっている。

琉球王国時代、火の神信仰は王府が推奨する公的な信仰でもあった。集落全体の守護神としてムラごとに火の神の祠が設置され、首里城正殿には「おせんみこちや」という部屋に、琉球王国全体を守るとされる火の神の祭壇が置かれていた。首里城では最高位の祝女である聞得大君がおせんみこちやの祭祀を執り行っていたが、その詳細は伝わっていない。現在、首里城正殿のおせんみこちやでは、1日2回、香が焚かれ、往時の雰囲気を感じることができる。（文Ⅱいのうえちず）

## 沖縄 美ら海水族館で 出会える生き物

Vol.10

和 名：オニイトマキエイ 科 名：トビエイ科  
学 名：Mobula birostris



黒潮の海を泳ぐオニイトマキエイ



オニイトマキエイ（左）とナンヨウマンタ（右）の背中模様の前縁の角度で両種を判別できる。  
※赤線は比較のため加えたもの。

オニイトマキエイは、英名「ジャイアントマンタ」と呼ばれる世界最大のエイです。世界の温帯から熱帯海域に分布しています。外洋性で、沖縄沿岸でも発見された例が少なく、国内外の水族館で飼育された例がありませんでしたが、沖縄美ら海水族館では、2018年11月に世界で初めてとなるオニイトマキエイの展示に成功しました。

マンタは、長い間オニイトマキエイ1種だけが知られていましたが、2009年にナンヨウマンタとオニイトマキエイの2種が存在することがわかりました。両種は、口周辺の色、鱗と歯の形と生え方の違いなどで見分けることができます。特に背面の白い模様の違いが顕著で、白い模様の前縁が、口の縁と平行になっているのがオニイトマキエイで、V字状になっているのがナンヨウマンタです。

また、ナンヨウマンタは体盤幅（体の幅）が4m程なのに対し、オニイトマキエイは6m以上まで成長します。これが「ジャイアントマンタ」と呼ばれる所以です。

沖縄美ら海水族館「黒潮の海」水槽では、オニイトマキエイのダイナミックな姿や、ナンヨウマンタとの違いをご覧ください。（金谷 悠作）

## 沖縄の希少植物

Vol.28

和 名：ヒメシロアサザ 科 名：ミツガシワ科  
学 名：Nymphoides coreana

レッドデータカテゴリー：  
絶滅危惧Ⅱ類（沖縄県・環境省）



ヒメシロアサザ



ヒメシロアサザが生育する田んぼ（西表島）

ヒメシロアサザは浅いため池や田んぼに生える水草です。径 8mm ほどの白い花を水面に咲かせます。世界では東アジア各国に、日本では本州以南に分布します。沖縄では宮古・八重山諸島で確認されていますが、現存する自生地は沖縄県内に10か所ありません。

ヒメシロアサザは花を咲かせ、昆虫が誘われますが、実は開花する前のつぼみの段階ですでに受粉は終わっています。受粉後になぜ花を咲かせるのか理由はよく分かっていませんが、遺伝的多様性の高いものよりも子孫を残す確率の高いものが生き残ったのではないかと考えられます。人為的影響の大きな田んぼで生き延びるためにヒメシロアサザが環境に適応していったと考えられます。

沖縄美ら島財団ではヒメシロアサザの保全を進めるために、圃場で栽培し、生息域外保全を行うほか、液体窒素を用いた種子の超低温保存技術の開発に取り組んでいます。（赤井 賢成）



# 有機肥料と菌根菌の力でつくる持続的な植物工場を目指して



本部町立上本部小学校の空き教室を利用した植物工場。レタス数種類の栽培を行なっている。

## ■ 植物工場の課題

沖縄県内では、暑さや台風のため夏場にレタスなどの葉物野菜を生産するのが困難です。そこで、気候に左右されることなく野菜を生産できるように、室温や光源などの環境条件を人工的に制御した、植物工場の導入が期待されています。

植物工場では、化学肥料を用いた水耕栽培技術で野菜を生産するのが一般的です。しかし、化学肥料の原材料であるリン鉱石は、資源に限りがあり、将来的に枯渇することが危惧されています。未来に向けて永く野菜生産を続けるためには、化学肥料に頼らない技術を構築する必要があります。

こうした問題点の解決策として、沖縄美ら島財団総合研究センターでは、有機肥料を用いた水耕栽培技術を開発し、植物工場に応用することを目指しています。

## ■ アーバスキュラー菌根菌の可能性

従来、有機肥料を用いた水耕栽培は難しいとされてきました。有機肥料は化学肥料に比べて肥料成分の濃度が低いので野菜の生育が

悪くなるからです。化学肥料を使った場合と同じように生育させるには薄い肥料成分を効率的に吸収させる必要があります。そこで注目したのが、植物の肥料成分吸収を助けるアーバスキュラー菌根菌（以下「AMF」）です。

AMFは自然環境に広く存在するカビの一種で、植物と共生することで生きています。AMFは植物が光合成で作った炭水化物を受け取る代わりに、植物が吸収しにくいリンなどの肥料成分の吸収を助けて、植物の生育を促進します（図1）。そうしたAMFと植物の関係を利用し、レタスなどの野菜の水耕栽培に利用したところ、化学肥料を用いた従来の栽培方法に近い収量が得られました。

## ■ 有機水耕栽培技術の展開

この有機水耕栽培技術には、底面給水型コンテナ（図2）を使用しています。このコンテナは、肥料を溶かした水が野菜の生育に必要な量だけコンテナの底からしみ出る構造になっており、従来の水耕栽培と比較して大掛かりな設備を必要としないのが特徴です。

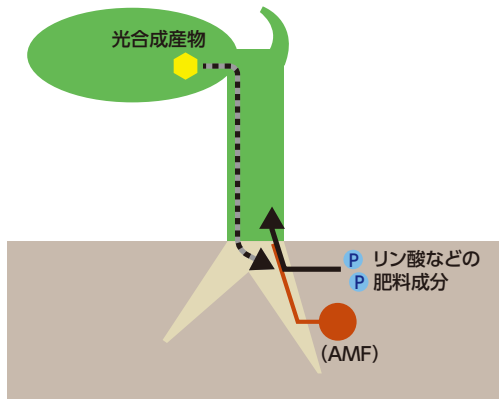


図1 AMFと植物の共生関係

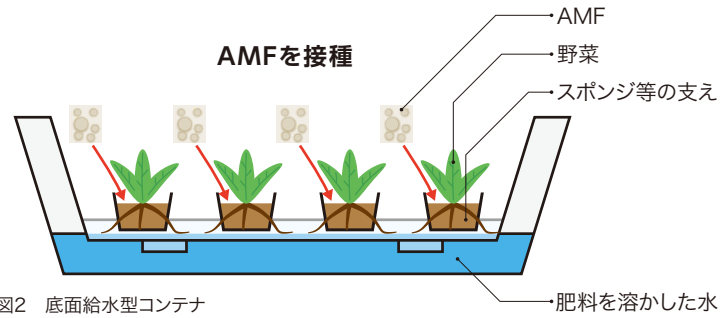


図2 底面給水型コンテナ



写真4 見学会のようす



写真3 底面給水型コンテナを用いた栽培試験



写真5 なごアグリパークにおける野菜生産

その特徴をいかし、児童数の減少に伴う空き教室の有効活用を目的に実証実験を行っています。空き教室は窓から適度な風と光が入り、かつ、電気・水道が完備されていることから、植物工場には最適な環境です。現在、本部町立上本部小学校（以下、上本部小学校）の空き教室を利用したレタス等の野菜生産に取り組んでいます（写真3）。

2018年9月3日には、本部町と上本部小学校の関係者を招待し、植物工場の見学会とレタスの収穫・試食会を実施し、参加者からはレタスの味の感想や、栽培コスト等について、さまざまな意見を頂きました（写真4）。将来的には野菜生産を事業化して雇用を創出し、地域の発展につなげることを目指しています。

また、当財団の管理運営施設である、なごアグリパークのスーパーファームでは、底面給水型コンテナを使用してさまざまな野菜を生産し、販売およびレストランでの提供を行っています（写真5）。今後、なごアグリパークにおける野菜生産を有機栽培に切り替えるため、さらに技術を改良して収量および栽培する野菜の種類を増やすことに挑戦しています。

（松原智子）



## 見て、ふれて、学ぶ「サメ肌のふしぎ」



企画展「サメ肌のふしぎ」会場の様子



ウロコの拡大模型

沖縄美ら海水族館では、毎年夏に、様々な海洋生物の生態に焦点をあてた企画展を実施しています。2018年8月1日から9月2日まで沖縄美ら海水族館イベントホールにおいて「サメ肌のふしぎ」と題し、サメのウロコ「楯鱗」の形態や機能、サメ肌の利用例、サメ肌リブレット（※1）をはじめとする生物模倣の先端技術「バイオミメティクス」（※2）を、標本、模型、パネルを通して紹介しました。

「楯鱗」は、1mmにも満たない小さなウロコのため、サメにはウロコが無いと思われている方が多くいます。そこで本展では、サメのウロコを分かりやすく伝えるため、株式会社島津製作所と学校法人千歳科学技術大学の協力を得て、ジンベエザメをはじめとしたサメ9種のウロコ拡大模型を作製、展示しました。ほかにもサメ皮の標本や3D画像等の展示を行い、種類によってウロコの大きさや形が異なることを解説しました。

また、サメ肌と私たちの生活との関わりについての展示も行いました。サメの皮はわさびおろしや皮製

品の材料として利用されますが、近年では、サメ肌の構造を模倣した水着等の製品も開発されています。会場では、これらの製品とともに、生物模倣「バイオミメティクス」の先端技術についてパネルで紹介しました（日立製作所・バイオミメティクス推進協議会提供）。さらに、日本トランスオーシャン航空株式会社の協力を得て、ミニレーター（木製のコックピット模型）操縦体験や航空教室を開催し、ウロコの構造が飛行機の翼にも応用されていることを整備士の方に解説していただきました。

期間中、サメにウロコがあることに驚かれる方や、生物模倣のパネルに熱心に目を通す姿が見られ、多くのお客さまにサメ肌のふしぎを伝えることができました。

様々な機関・企業のご協力のもと開催した本展には、多数のお客さまが来場し、開催期間33日間で10万人以上の来場者数を記録しました。今後も、多くの方々にさまざまな企画展を通して、海洋生物のふしぎや魅力を紹介していきます。

（横山季代子）



企画展開催にあわせて作成した沖縄美ら海水族館オリジナル冊子「サメのふしぎ」とびだす！サメ肌図鑑」



ミニレーター操縦体験の様子



サメのウロコの形を真似た形状が羽根に加工されている送風機（提供：株式会社日立製作所）

※1 リブレット：サメ肌にみられる周期的で微細な凹凸形状の構造のこと。  
 ※2 バイオミメティクス：生物の形態や機能を模倣して製品開発に活かす技術。

# 御城物語

うぐしくものがたり

Vol.18

かつて、首里の人々が「御城（うぐしく）」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関係するトリビアを語る歴史エッセイ。

## 今はなき「中山門」

ちゅうざん

首里城への第一の門として「中山門」があったことをご存知ですか？ 守礼門から西へ約500m、現在の沖縄県立首里高等学校の西側の角に位置し、1428年に中国風の牌楼形式で建てられました。当初は「建國門」と呼ばれましたが、後に「中山」の文字を扁額に掲げたことから「中山門」と呼ばれるようになりました。その形や大きさは守礼門と同形であつたといわれていますが、琉球王国の崩壊後、老朽化が進み、1908年（明治41年）に解体・撤去され、現在はその姿を見ることはできません。

中山門と守礼門をつなぐ道は「綾門（美しい門）大道」と呼ばれ、道の両脇には王府関連の

建物や寺院等が並びました。別名で、中山門は「下之綾門」、守礼門は「上之綾門」と呼ばれ、対をなす美しい門として親しまれていました。

平成29年度に沖縄美ら島財団が収集した『中山門図』には、中山門を行き交う人々の様子が色鮮やかに描かれています。門の奥には、石垣に囲まれた赤瓦の建物等を見ることができま

す。現在、跡地には史跡解説板が立っています。往時、首里城へ向う役人たちは、そこで立ち止まり気を引き締めて門をくぐったことでしょう。みなさんも足を止め、今はなき「中山門」の姿を想像してみてくださいか。

（宇保朝輝）



『中山門図』（比嘉盛清 作）老朽化により解体された為、その姿を描いた絵図等は少なく貴重。



現在の中山門跡地（画像提供：那覇市）

## 沖縄いきものこうむ

Vol. 1

### クロイワトカゲモドキ

学名：Goniurosaurus kuroiwa kuroiwa

クロイワトカゲモドキは沖縄諸島の固有種です。生息する島々によって模様や遺伝子が異なっており、沖縄県内でも5つのグループ（2018年10月現在）に分かれています。開発による生息地の破壊等により、生息数はすべてのグループにおいて減少しており、沖縄県の天然記念物に指定されています。

幼体は全長9cm程ですが、成体になると14～19cm程にまで成長します。夜行性で、漆黒の体に、星々と天の川を反射したかのような黄色い模様が特徴的で、初めて見る多くの方がその美しい姿に魅了されるようです。

名前に「トカゲモドキ」とありますが、実はトカゲのような特徴を持つ「ヤモリ」の仲間です。多くのヤモリの足指の裏側には、吸盤のような働きをもつ細かい毛の集まり＝指下板がありますが、トカゲモドキの仲間はそれを持たず、逆にヤモリでは珍しい可動性の眼を持っています。

国営沖縄記念公園（海洋博公園）では、40年以上に渡り、大規模な開発が無く、生息地となる琉球石灰岩が散在する森林が保全されたことや、夜間の入園規制があることから、生き続けることができたものと考えられ、毎年繁殖が確認できています。

（山崎 啓）



クロイワトカゲモドキの成体



クロイワトカゲモドキの幼体



海洋博公園ナイトツアーでのクロイワトカゲモドキの観察



# 大人も子どもも楽しめる プログラムを実施する企画班の仕事

沖縄美ら島財団のノウハウを活かしたプログラムづくりで、  
沖縄県立博物館・美術館の魅力を伝える

## 学べる、遊べる、楽しめる おきみゅーをより身近な存在に



ふれあい体験室ワークショップ「ふれたい博士のかんたん化石のレプリカづくり」の様子。

沖縄県立博物館・美術館（以下、おきみゅー）は、全国的にも珍しい、博物館と美術館の複合施設。そのため、おきみゅーの普及啓発活動プログラムも博物館領域のサイエンス系・歴史文化系コンテンツ、美術館領域のアート系コンテンツと多種多様で、それを企画・運営する企画班がカバーする領域も広い。

と話すのは、企画班で教育普及業務を担当する大瀧萌子主任だ。おきみゅー内は部屋ごとに持ち込めるものが決まっており、制限が比較的自由で、ゆるやかなのが実習室だ。そこで平成30年度は博物館の「縄文と沖縄」展と連動して、実習室に食材を持ち込み、縄文土器型クッキーを焼くワークショップを行った。

そんな中、特にアート系の小学生向けプログラムに、大人から「参加したい」という声が多いことから、平成30年度は大人も参加できるワークショップを実施することに。「OKINAWA アートワークショップ」と題し、6つのプログラムを企画した。

子ども向けワークショップは、「博物館領域は定期的に開催する『ふれあい体験室ワークショップ』のように、ワイワイとにぎやかなのに対して、美術館のほうは黙々と取り組む子が多いと思います。図画工作の授業やコンクールと違って評価されるという前提がない分、のびのびと制作に打ち込める場になっていと思っています。こうした自由な表現を提供することは当館が行うワークショップの役割でもあり、今後も積極的に企画したい」と金城美奈子企画班班長。おきみゅーだけでなく、首里城公園で写生をするなど、他の沖縄美ら島財団（以下、財団）管理運営施設と連携した「ほかかご美術の教室」は保護者にも大好評だ。



- ①大人も子どもも夢中で取り組んだヤギアート。ワークショップ「ボク・わたしのヤギ」
- ②ヤギアート作品。
- ③右：金城美奈子企画班長、左：大瀧萌子教育普及主任。
- ④首里城公園内で実施した写生大会のワークショップ。
- ⑤美術館の屋外展示場では県内アーティストによるライブを楽しみながらつづぐ人の姿が多数。
- ⑥沖縄美ら島財団が包括連携協定を結んでいる沖縄県立芸術大学学生による開館10周年記念ミュージアムコンサートは沖縄の祝いの席に欠かせない琉球舞踊「かぎやで風」からスタート。
- ⑦大瀧主任がつけている「お客さまのつぶやきメモ」。

おきみゅーのイベントで、過去最多の来場者を迎えたのが2017年11月3日に開館10周年を記念して開催した「秋の Arts & Music Festival」だ。「人気バンド、モンゴル800のライブもあつて、たった1日で来場者数が1万人を超えたんです。2018年の開館日は『おきみゅー誕生祭2018』として、アートやクラフトの展示販売などを行い、大盛況でした」と、金城班長は話す。

連携した「サイエンスカフェ」を実施予定。大瀧主任は、企画のヒントについてこう話した。「事務所に詰めていても柔軟な発想は生まれません。企画班のスタッフはなるべく展示室へ出向いて、お客さまの様子を観察するようにしています。お客さまの会話やつぶやきを拾って、展示内容の改善や、次の企画を考える時の参考になっているんですよ」

イベントやワークショップは「博物館敷居が高い」というイメージを払拭し、普段はあまり博物館や美術館へ足を運ばない人たちに「行ってみようかな」と思わせるキッカケとなる。教育・啓発につながるおきみゅーならではのコンテンツで、財団のノウハウを活かした独自性のある企画を探索している。2019年2月には、財団の総合研究センターと

お客さまのつぶやきから浮かんだアイデアがワークショップの内容につながることもある。職員の発案が独善的なものにならず、お客さまのニーズをつかむことで、少しでも利用者数の増加につながるよう、企画班はおきみゅーの魅力発信に努めている。（文＝いのうえちず）





琉球王国時代の絵画は、掛け軸や屏風になっていることが多い。これら、裂地や紙などを貼ることで仕立てられたものを表具といい、仕立てることを表装、それを行う職人は表具師と呼ばれる。沖縄美ら島財団（以下、財団）では、歴史的にも貴重な美術品を収蔵しており、時には修復や表装が必要になることも。そんな場面で頼りになるのが、熟練した技術を持つ表具師だ。首里城南殿や黄金御殿に展示される美術品の『裏側』について、石川堂の表具師、當間巧氏にお話を伺った。



石川堂 表具師  
せきせんどう ひょうぐし  
當間 巧 たつま たくみ

— 沖縄県内に表具師さんは何人ぐらいいらっしゃるんですか？  
當間 「文化財を扱うのは数人だと思っています。琉球絵画、書、古文書、巻物などの修復と表装を行っています。ご依頼があれば、新画や墨書等の額装・軸装も行います」  
— 先祖代々、表具師さんですか？  
當間 「僕で三代目になります。初代にあたる祖父は郵便局員だったん

ですが、終戦直後に開設した東恩納博物館（現うるま市）に集められた工芸品や美術品、特に傷んだ絵画や書を見て、『修復して後世に残せないだろうか』と思ったのだそうです。祖父は自腹で京都へ何度も行って、表装の技術を学びました。沖縄の文化への想いが強い人だったと思いますが、まあ、祖母は大変だったでしょうね（笑）」

— 當間さん自身、技術はどこで身につけられましたか？  
當間 「父のもとで基礎的な技術を学んで、20歳から3年間、京都で修行しました。独立してから15年が経ちます。沖縄では襖絵や、大きい掛軸を扱う機会ほとんどありませんが、京都ではいろいろな表装と修復の技術を学びました。季節に応じて掛け軸を取り換えて楽しむという伝統文化に、直接触れたことも大きかったと思います。こちらに帰って来てからのほうが、沖縄の歴史や伝統文化をいっそう好きになりました。戦前の沖縄には古い時代の美術品がゴロゴロしていたはず。戦災で失ったのは惜しいことですよ」

— 本当ですね。ところで、仕事はどんな風に進められるのですか？  
當間 「掛軸の絵画の場合、まず預かってきたら調査を行います。どんな基底材（紙、絹）に描かれているか、傷み具合はどれぐらいか、寸法も図ります。それから写真撮影。普通の写真に加えて、赤外線や紫外線でも撮りますし、折れのある場所が目立つように、わざと片側からライントを当てての撮影もするんですよ」  
— 修復前の姿をしつかり記録することもお仕事なんですね。

— 修復前の姿をしつかり記録することもお仕事なんですね。

— 修復前の姿をしつかり記録することもお仕事なんですね。

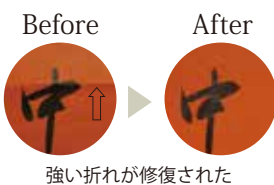
の気候では古糊を作ろうとすると発酵が進みすぎるので、僕は金武町の観音寺の鍾乳洞に、糊の甕を置かせてもらっています。温度・湿度が一定で、5年ほどでいい古糊ができます」  
— 糊まで手作りですか！接着剤は使わないんですね。



織物の本場、西陣産の品質の良い正絹の緞子や金襴。近頃では入手し難くなっている。

當間 「合成物質が原料となる化学糊は、40〜50年後、美術品にどんな影響があるかわかりませんから。長期的に保存するには、可逆性がある、天然素材の糊を使うことが大切です」  
— 糊も大切な素材なんですね。財団からの依頼では、表装の裂地選びを財団職員と共にすることも多いそうですね。

當間 「軸装の場合は、外枠にあたる『上下』や両サイドの『柱』、書や絵と上下の間にはさまれた『文字』、



強い折れが修復された



修復のようす



『尚慎書』（修復後）

その他のパーツを合わせていきます。財団からの依頼では、実際にモノに裂地を当てて、広げて見ながら協議して決めることは多いです。表具は脇役。主役である絵や書が引き立つようにしてはなりません。書や絵と時代的な裂地の風合いや調和を考え、元の表装裂地材を修復して元使用や再使用することもありますし、傷み具合によつて総取り換えになることもあります。時代背景をふまえた上で、おめだたい内容の書なら、吉祥文様の柄を合わせたり、落ち着いた絵画には小紋柄を合わせるなど、こちらからご提案することもあります。表具師も、誰が書いたかどうかというのかという、書や絵の内容を理解した上で仕事をしなくては。色や柄で印象は変わりますし、一文字ひとつで、雰囲気が変わってしまふこともあって、奥が深いですね」  
— 女性の着物のコーディネートにも似ていますね。襟や帯揚げに差し色が入るだけで全体が引き締まっ

たり、華やいだり。  
當間 「そうかもしれません。京都・西陣には生地 of の買い付けのために、定期的にに行くようにしています。京都で神社仏閣や博物館を回って、いいものを見て目を肥やすこと、センスを磨くことも大切です。白や薄い色の裂地は、絵画や書に合わせて、自分で染めることもあるんですよ」  
— こんなに手を尽くして、絵画や書が生きて生きと蘇る。當間さんは首里城の舞台裏には欠かせない職人さんですね。  
當間 「いえいえ、私もまだまだ勉強中です。首里城南殿や黄金御殿の展示室へ行っても、自分が手掛けた軸の『掛かり具合』が気になって、細かいところを何度もチェックしてしまします（笑）」  
— 沖縄で仕事をしていて良かったなと思うことはありますか？  
當間 「貴重な美術品の、文字通りに裏側を見えるというのは緊張しますが、うれしい仕事です。たまに、祖父が修復したものを私が手がけることもあるんですよ。掛け軸を解体すると、その修復の跡がありありと見えて、祖父の仕事ぶりに触れることができます。それもまた、醍醐味のひとつかもしれません」  
（文Ⅱいのうえちず）



## 第2回 総合研究センター活動報告会開催しました

2018年10月21日、沖縄県立博物館・美術館（愛称：おきみゅー）において、第2回「総合研究センター」活動報告会 美ら島再発見（動物、植物、琉球文化から迫る）を開催し、沖縄の自然・文化の保全に関わる4つの研究について活動内容を報告しました。

動物研究室の小林希実<sup>のぞみ</sup>研究員は、2018年で27年を迎える当財団のザトウクジラの生態調査について、調査から判明した沖縄海域での分布傾向や、来遊時期から分析する繁殖、子育ての傾向、国外の研究組織との連携活動をスライドで紹介しました。

当日は100名を超える聴講があり、「興味があってもなかなか知ることができない内容で、大変楽しめた」「研究が地域貢献にも結びついてよいと思った」等のお言葉をいただきました。

今後も総合研究センターでは、沖縄の生物や自然環境、文化などの研究について、当報告会のような普及啓発の場を積極的に設けて、地域産業振興への寄与、環境保全等の普及啓発に努めていきます。



発表のようす（動物研究室 小林 希実 研究員）



会場のようす

| テーマ                                                        | 演者                          |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 子どもたちへ繋ぐ身近な自然の面白さ ～学校教育との連携～                               | 普及開発課 前田 好美 <sup>このみ</sup>  |
| 20年以上に亘るザトウクジラの生態調査<br>～ホエールウォッチング産業への貢献を目指して～             | 動物研究室 小林 希実                 |
| 身近な人里の植物：田んぼの雑草が消えていく<br>～水田雑草を通してみた沖縄の農村環境の現状と保全に向けた取り組み～ | 植物研究室 赤井 賢成 <sup>けんせい</sup> |
| 琉球産の上布と中国産の桐板 <sup>とうびやん</sup> ～染織文化財資料研究の紹介～              | 琉球文化財研究室 宮城 奈々              |

## 国内の研究機関と共同し

## サメの全ゲノム配列を解読!!

2018年10月、沖縄美ら島財団総合研究センターは、国立研究開発法人理化学研究所、大阪・海遊館、公立大学法人大阪市立大学大学院理学研究科、国立大学法人東京大学大気海洋研究所と共同でサメ3種（ジンベエザメ、イヌザメ、トラザメ）の全ゲノム配列を解読した研究結果を論文として公表し、英国のオンライン科学雑誌「Nature Ecology & Evolution」に掲載されました。

この研究では、沖縄美ら海水族館で飼育中のジンベエザメから得られた遺伝情報を活用してサメ類のさまざまな遺伝的特性が明らかにされました。

特に、感覚を司る遺伝子群の解析はサメ類の生態の理解を深めることに繋がりました。ジンベエザメは浅海から深海まで幅広い生息域を利用している可能性が示唆されていましたが、視覚を司る遺伝子の多様化と特性からも、その生態学的知見が裏付けられる形となりました。また、サメ類は嗅覚が鋭いと言われてきましたが、遺伝子の性状からは感覚機能として嗅覚にあまり依存していない可能性が明らかになりました。

今回解読されたサメ類のゲノム配列は、今後、サメ類の研究・保全や、水族館における飼育・繁殖技術など、幅広い分野への活用が期待されます。



トラザメ



イヌザメ



沖縄美ら海水族館で飼育中のジンベエザメ

## 国営沖縄記念公園（海洋博公園） 入園者1億人達成!!

2018年10月3日10時22分、国営沖縄記念公園（海洋博公園）の入園者が1億人を達成しました。

記念すべき1億人目の入園者は、熊本県から家族4名で来園された佐野拓磨君（5歳）でした。

達成式では、フラッシュモブの演出に続き、国営沖縄記念公園事務所鈴木武彦所長から認定書が授与されました。また、本部ミス桜友利沙彩<sup>さあや</sup>さんより、花束および本部町特産品詰め合わせの贈呈と、沖縄美ら島財団親川達男常務理事より記念品を贈呈し、達成を祝いました。

国営沖縄記念公園（海洋博公園）は1976年（昭和51年）8月1日に開園し、42年2ヶ月で入園者1億人達成いたしました。これもひとえにご来園いただいたお客さまや、日ごろよりご協力・ご支援くださる地域の方々、関係者の方々のおかげと感謝しております。

沖縄美ら島財団では、今後も多くのお客さまにご利用いただける様、魅力ある公園管理運営に努めていきます。



（写真前列）佐野拓磨君とご家族（写真後列左より）本部ミス桜池宮城祥子さん、本部町商工会 松田泰昭会長、一般社団法人本部町観光協会 富山清博会長、国営沖縄記念公園事務所 鈴木武彦所長、沖縄美ら島財団親川達男常務理事、本部ミス桜 比嘉麻乃さん、友利沙彩さん



フラッシュモブによる演出

## Happy Birthday! Okimu おきみゅー誕生祭2018開催しました

沖縄県立博物館・美術館（愛称：おきみゅー）では、2018年11月1日の開館日を祝して、11月3日に「おきみゅー誕生祭2018」を開催しました。

「食とアートと音楽で楽しむ」をテーマに、沖縄県内の人気パン屋さんを集めた「パン博物館」や若手アーティストの作品が並ぶ「アートマーケット」、音楽ライブ、ものづくりワークショップ、お楽しみ抽選会など、子どもから大人まで終日楽しめる様々なイベントを実施しました。

また、限定で館内の展示室と屋外展示場を結ぶスタンプ&クイズラリーを実施し、当日は朝からの大雨にも関わらず、館全体が大勢の方で賑わいました。これからも文化の日の定番イベントとして、11月3日は「おきみゅー誕生祭」を開催する予定です。お楽しみに♪



アートマーケット



エントランスホールで行われた音楽ライブ



パン博物館（ミュージアム）@正面回廊



# おもろさうしの

## 植物

其の十五

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登場する植物の紹介コーナー。  
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることが出来ます。

### 「くねふ」 (クネンボ)

一 島尻くねふ

親国くねふ

うらこやはひ

又 おれづもが 立てば

若夏が 立てば

うらこやはひ

「第一四卷九九四」

島尻の九年母(蜜柑)、  
親国の九年母の実りが  
待ち遠しいことだ  
ウリズンの季節になると  
若夏の季節になると  
待ち遠しいことだ

「解説」  
島尻の九年母(蜜柑)、親国の九年母の実りが待ち遠しいことだ。ウリズンの季節になると、若夏の季節になると、九年母の実りが待ち遠しいことだ。  
「くねふ」は、九年母。柑橘類の総称。方言ではクニブ。カーブチー、オートー、クガニーなどの種類がある。  
「おれづも」は、旧暦二、三月頃の季節。降雨が土に潤い浸み込むことを農村ではウリーというが、ウリーを原意にした語。方言ではウリズン、ウリジンなどという。  
「わかなづ」は、旧暦四、五月頃の季節。不老長寿の薬といわれた九年母の実りを待ち遠しがっている気持ちがよくわかるオモロである。

おもろ名  
和名 クネンボ  
科名 ミカン科  
方言名 クニブ・トクニブ



#### 一口メモ

クネンボの果実は12月〜1月に熟し、食味が良くて甘みや果汁が多く、生食に向いている。また、実を刻んで乾燥させたものを煎じて咳止めとしても利用される。ヒラミレモン(シークワサー)とよく似ているが、果実が大きいことなどで区別がつく。  
沖縄方言ではトウクニブとも呼ばれ、トウ「唐」、クニブ「ミカン」、唐・中国から来たミカンを意味する。沖縄での栽培は本島北部、旧羽地村(現名護市)に多く、羽地ミカンとも呼ばれている。沖縄の柑橘類の中ではタンカンが経済栽培される以前は、カーブチー、オートーとともに栽培の中心であったが、現在では栽培は少なくなっている。

※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団  
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島  
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

ちゅ うまんちゅ  
**美らなる島の輝きを御万人へ**

沖縄美ら海水族館



沖縄県立  
名護青少年の家



なご  
アグリパーク



沖縄県立博物館・  
美術館(おきみゅー)



2019年1月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人

沖縄美ら島財団  
Okinawa Churaumi Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888

TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5



この印刷物の情報は個人情報保護マネジメントシステム  
(プライバシーマーク)を適用しています。  
株式会社 東洋企画印刷 プライバシーマーク 24000430

季刊誌 **南風** 冬号 vol.50  
2019.1~3

ISSN 2189-4140